

□議員名：山田伸幸

1 宇宙監視レーダーについて

論点	埴生地区に建設が進められている宇宙監視レーダーについては 2 つの問題がある。防衛省が目的として宇宙のゴミから日本の衛星を守ること以外としてロシアと中国のキラー衛星も標的とすると発表したことから、国際的緊張の高まりでテロの標的とされるのではないのか。
回答	防衛省に問い合わせたところ、衛星に宇宙ゴミがぶつからないようにすることが目的であり、相手方に脅威を与える施設ではないと回答をいただいている。

論点	防衛ジャーナリストは、「このような施設が国際的緊張の中で攻撃対象とならないはずがない」と語っている。市民からもこの点に対する不安の声が上がっている。市民が安心して暮らしていけるようなまちづくりをすべきではないのか。
回答	市民の安心については市がどこまで担保できるか難しい。引き続き防衛省にていねいな説明を求めている。

2 子育て支援について

論点	市長は子育てに力を入れると言っているが、子どもの医療費は中卒まで 1 割負担となっている。せめて県内他市と同等の中卒まで負担なしの無料に拡充する考えはないか。
回答	他市の状況を注視しながら子どもの医療費助成拡充を検討していきたい。

論点	コロナウィルス感染が広がり、子どもの受診控えが起きている。小児科医の医業収入が 38%に落ち込んでいることから明らかだ。子育て支援に取り組む市の基本的な姿勢として医療費助成を拡充する考えはどうか。
回答	今年度市負担を 1 割助成から 2 割助成に増やしたばかりである。子育て支援策は医療費助成だけではない。

論点	子育て中の世帯にとって、国保料は重い負担となっている。国保料算定では子ども一人ずつにも保険料が加算される。ある母親は「子どもを産むことがペナルティ」と語っている。子育て中の家庭を支援するために子ども分を算定から外すべきではないのか。
回答	国保料算定には所得割と一人ずつにかかる均等割、各所帯にかかる平等割がある。公平性を保つために現状のままでいきたい。

3 地方卸売市場の運営移管について

論点	新たに決まった市場運營業者の選考は公平に行われたか。
回答	当初、市が運營業者を公募したが応募がなかった。そこで市場関係者を集めて民営市場とすることの説明を行い、民営市場の運営を希望する業者を募集したところ、2社から応募があり、2社で協議していただき決定した。市は決定に関与していない。

論点	説明会では市のこれまでの運営に対して不満の声が多く聞かれた。主には市場内での冷蔵庫の設置と会議室の独占的使用についてであった。公平な運営が行われてこなかったのか。
回答	様々な指摘を受けたが、それぞれ適正に処理してきた。

論点	小野田中央青果の破産について、債権者集会の場で破産管財人から「数年前から破産状態であり、会社の存在そのものに問題があった」と指摘されている。私もこの場で繰り返し会社経営の赤字隠しなどを指摘してきたが、市は何も対処してこなかった責任があると思うがどうか。
回答	市としても破産はやむを得ない判断であると考えている。

論点	市は、破産状態であった会社の経営状況を打開するためとして、市民の大切な税金の中から経営改善の補助金を1100万円の投入してきた。市の責任はどうか。
回答	決算書上は経営改善がされていた。

論点	経営改善はされるに破産したわけだが、結局市民の大切な税金が無駄に終わった。その責任を問われている。
回答	当時の市の責任者が判断したことである。